

# 姫センの飼育員ら講話

東雲高 進路実現の意識高める

篠山東雲高校でこのほど、全校生徒（47人）を



対象に進路講演会があり、姫路セントラルパーク（姫セ）の飼育員らが動物園の仕事や動物との触れ合いなどについて語った。同校の教頭が姫セ社員だったことが縁で実現。仕事のやりがいや心構えを聴くことで職業を身近に感じ、進路実現に向けて意識を高めてもらおうと企画した。農業高校として、ウシ、ヤギ、イヌなども飼育している生徒たちは、動物園の仕事に興味津々の様子で耳を傾けていた。

姫セから、元園長で顧問の さん、飼育員で係長の さん、獣医師の さんの3人が来校した。

さんは幼い頃から動物好き。高校時代は体育教師にも憧れていたという。動物園に就職する手段として専門学校に進学したが、2年生の時に倒産してしまう。途方に暮れていた春、偶然にも求人募集をしていた姫セに就職することができた。経緯を語り、動物園に公立と私立があることなどを紹介した。

また、映像を見せながら動物園のバックヤードの仕事解説。特に仕事量が多い業務は、飼育場の掃除で「うんちの状態から健康状態が分かるので非常に重要な仕事」とし、餌にも神経を配っていることを紹介。ペンギンには魚を与えるが、いったん冷凍された魚は栄養価がかなり落ちているため、必ずサプリメントを仕込み、さらに海の

生き物なので海水と同じ濃度の塩分も加えて与えていると説明した。また、ゾウ1頭の一日の食事は150kgで、1カ月の餌代が100〜200万円になると伝え、生徒たちの興味を誘っていた。

「まずは動物たちを健康に飼うのが一番大切なこと。それに伴って治療をしたり、餌を考えたりしている。愛情込めて世話をした動物を見たお客さまが喜んでくださっている姿を見るのが私たちのやりがいにつながっている」と締めくくった。

さんは、「まずは自分が楽しく真剣に取り組める仕事を見つけて。姫セの面接では明るく大きな返事ができ、はきはきと答える人を望んでいた。」

「とし、自分がやりたい職業に対し、常にアンテナを立てておくことが大切。若いうちいろいろなことに挑戦し、経験して」と呼びかけていた。

2026年1月18日

丹波新聞

↑  
さんの話を熱心に聴く生徒たち＝丹波篠山市福住で